

令和8年度 静岡県立浜松大平台高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年5月11日(月) 午後1時30分から3時30分まで

2 会 場 静岡県立浜松大平台高等学校 会議室

3 参加者 (1) 学校運営協議会委員 7名 (2) 浜松大平台高等学校職員 10名

4 内 容

- (1) 委員委嘱
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校運営協議会委員及び職員紹介(自己紹介)
- (4) 会長、副会長選出
- (5) 学校経営計画について
- (6) 意見交換・協議・承認
- (7) 授業・施設見学
- (8) 第2回以降の学校運営協議会について

5 今後の予定

第2回 学校運営協議会(9月15日(火) 午後1時30分から3時30分まで)

全日制農業クラブ研究発表大会・定時制生活体験発表会(9/4(金))の報告

第3回 学校運営協議会(11月24日(火) 午後1時30分から3時30分まで)

文化祭(全日制11/8(日) 猿投祭・定時制11/10(火) 連綿祭)の報告

第4回 学校運営協議会(2月9日(火) 午後1時30分から3時30分まで)

学習発表会(全日制1/29(金))報告等、令和8年度学校評価・質疑応答等

6 委員より

(1) 質疑応答

・SNS上のトラブル防止や社会に出てからの適切な情報発信に向け、防犯講座や情報教育を実施している。問題発生時には個別指導に加え、全体への注意喚起を様々な媒体で行っており、今後も情報リテラシー向上に努めていく。

・いじめアンケート等で事案を把握した場合は、いじめ防止基本方針に基づき、担任や年次主任など生徒に近い職員が聴き取りを行い、管理職・委員会等で情報共有しながら組織的に対応している。なお、いじめの訴えの受理と問題行動への指導は分けて対応している。

・定時制の今年度入学生の約3割が外国にルーツを持つ生徒である。日常会話は可能である一方、高校で求められる「読む・書く・考えて表現する」力には課題が見られる場合がある。日本語チェックテストにより支援が必要な生徒を把握し、支援につなげているが、生徒本人が必要性を認識できるかが重要である。

・全日制定時制合同の防災訓練については、これまでも必要性を認識していたが実施には至っておらず、実現に向けて取り組むことが課題である。生徒の安否確認については、確認用のコミュニケーションツールを整備している一方で、スマートフォンが使用できない場合への対応に課題がある。

・ P F I 事業終了に伴い、清掃は学校予算内で対応するため実施回数を減らして運用していく。設備点検は県の計画に基づき他校と同様に実施する。終了初年度であるため、今後生じる課題についてはその都度対応していく方針である。また、食堂機能の維持方法を模索するとともに、地域への施設開放については校内の安全性確保を前提に進めていく。

(2) 感想及び意見

・ 私学との共存や公立高校の在り方を踏まえると、本校は学校経営計画の方向性に基づいた教育実践が行われており、その方向性を維持しながら知見を蓄積していくことが重要である。また、生産から販売までを学ぶビジネスモデルや起業家精神・実践力を育成できる特色を生かし、積極的に発信していくことが期待される。

・ 本校の魅力や特色については、施設環境や多様性を受け入れる校風、2年次から進路に応じた選択ができる仕組み、充実した実習などが高く評価された。地域や小学校との交流を進めることで、進路選択の幅を広げる機会につながるとの意見もあった。

・ Ⅲ部制の定時制については、地域や中学校での認知度が十分ではなく、「定時制は夜間のみ」「やんちゃな生徒が多い」といった固定観念も残っているとの指摘があった。一方で、不登校経験のある生徒が安定して通学できている例や、経済的負担の軽減などの利点もあり、中学校や保護者への積極的な P R が必要との意見が出された。

・ 全日制と定時制が併設されている利点については、生徒・職員間の交流が少ないとの意見がある一方で、生徒支援や S C ・ S S W、部活動などで共有や連携が進んでいるとの報告があった。今後も必要に応じて区分しつつ、交流できる部分については促進していくことが望まれる。